

佐潟散策 マップ 春夏版



案内標柱
佐潟を歩く際には案内標柱(左)を目印にしましょう。マップと連動して①～⑬の標柱が設置されています。

佐潟水鳥・湿地センターを基点	距離	徒歩
野鳥観察舎までを往復	約1km	約25分
下潟のみを一周	約4km	約1時間
上潟と下潟を一周	約5.5km	約1時間30分

自転車の貸出しもあります!

西区無料レンタサイクル
●貸出返却場所 佐潟水鳥・湿地センター (午前9時～午後4時) (休館日は除く) ※こども用はありません



野鳥観察舎



佐潟水鳥・湿地センター
開館時間/午前9時から午後4時30分 (11月から2月の土日は午前7時から)
休館日/月曜(祝休日の場合翌日)、年末年始(12/29～1/3)

番号

標柱情報

春夏版

番号	場所の呼名	呼名のいわれ、ようす	標柱の写真
1	さかたばし 佐潟橋	佐潟公園整備の際に建築され、現在は2代目の橋。佐潟の代表的景観が望める。	 ハス 佐潟の夏の風物詩。花は盆花として、果実は食用や工芸材料に活用。
2	しぜんせいたいえん 自然生態園	木道が整備され、希少な水生植物や水生昆虫、魚も観察できる。	 オニバス 日本の水生植物の中で一番大きな葉をつける。新潟市が北限の自生地。
3	やちょうかんさつしゃ 野鳥観察舎	愛称は「潟見鳥(かたみどり)」。水鳥の観察には、佐潟で最もよい場所にある。	 オオヨシキリ ヨシ原で子育てをする夏鳥。鳴き声はとつてもにぎやか。
4	すぎ 杉ダゴ (スギンダオ)	昔、ここに杉林があったという。現在も細い杉があり、面影を伝えている。	 ヨシ 水際に生え、群落を作る。大人の背丈を超えるものも。
5	はな さか 花が坂	悲しい言い伝えからこの地名がついた。現在は、坂の痕跡がわずかに残るだけ。	 オドリコソウ 人里に多い。名の由来は花の形が笠をかぶった踊り子に見えるからとか。
6	こ わた みち 漕ぎ渡り道 (中道)	上潟と下潟を分ける道。現在は通称「中道(なかみち)」と言われている。	 ミズアオイ 水辺に生える絶滅危惧植物。昔は田んぼの雑草だった。
7	ひかりづか 光塚	昔、純金の観音菩薩、法具等が出たという伝説のあるところで、うっそうとしている。	 ノアザミ 春から夏にかけて開花するアザミのなかま。葉にはとげがある。
8	おおしみず 大清水	かつて幾筋もの水路があり、清らかな冷たい水が湧き出していた。佐潟で最も上流にあたる。	 ベニシジミ 日当たりの良い草原に多い。羽を広げた大きさは、500円玉ほど。
9	なごまつ 名子松	かつてこの地には立派な松林があり、地主に断り松葉拾いをしたという。	 ノシメトンボ 赤とんぼのなかま。羽の先が黒いのが特徴。
10	ぬま 沼	下潟の北西岸一帯。現在は松が植栽され、中にある道は春や秋に心地よい。	 ノイバラ 花の終わった後につく赤い実もきれい。
11	はすごやば 蓮小屋場	蓮根採りが盛んな昔、ここに小屋をつくり、火で温まりながら潟に潜り蓮を採っていた。	 セスジイトトンボ からだの太さはマッチ棒ほど。雄雌で色が異なる。
12	ながわり 長割	御手洗潟(みたらせがた)に面し、かつてはもっと高い砂山があった。	 ヨシゴイ 水辺で生活する夏鳥。水辺の草に擬態(ぎたい)する。
13	はなびば 花火場 (赤塚中学校)	昔、お祭りの際、草花火のほか、この地で打ち上げ花火がおこなわれていたという。	 コウホネ 水面にあざやかな黄色い花をつける。

●マップ製作：佐潟水鳥・湿地センター
住所 新潟市西区赤塚5404-1 電話025-264-3050

●公園についての問合せ：新潟市西区建設課
電話025-268-1000(代)

※このマップに掲載されているデータ・画像の転載・無断使用はできません。